

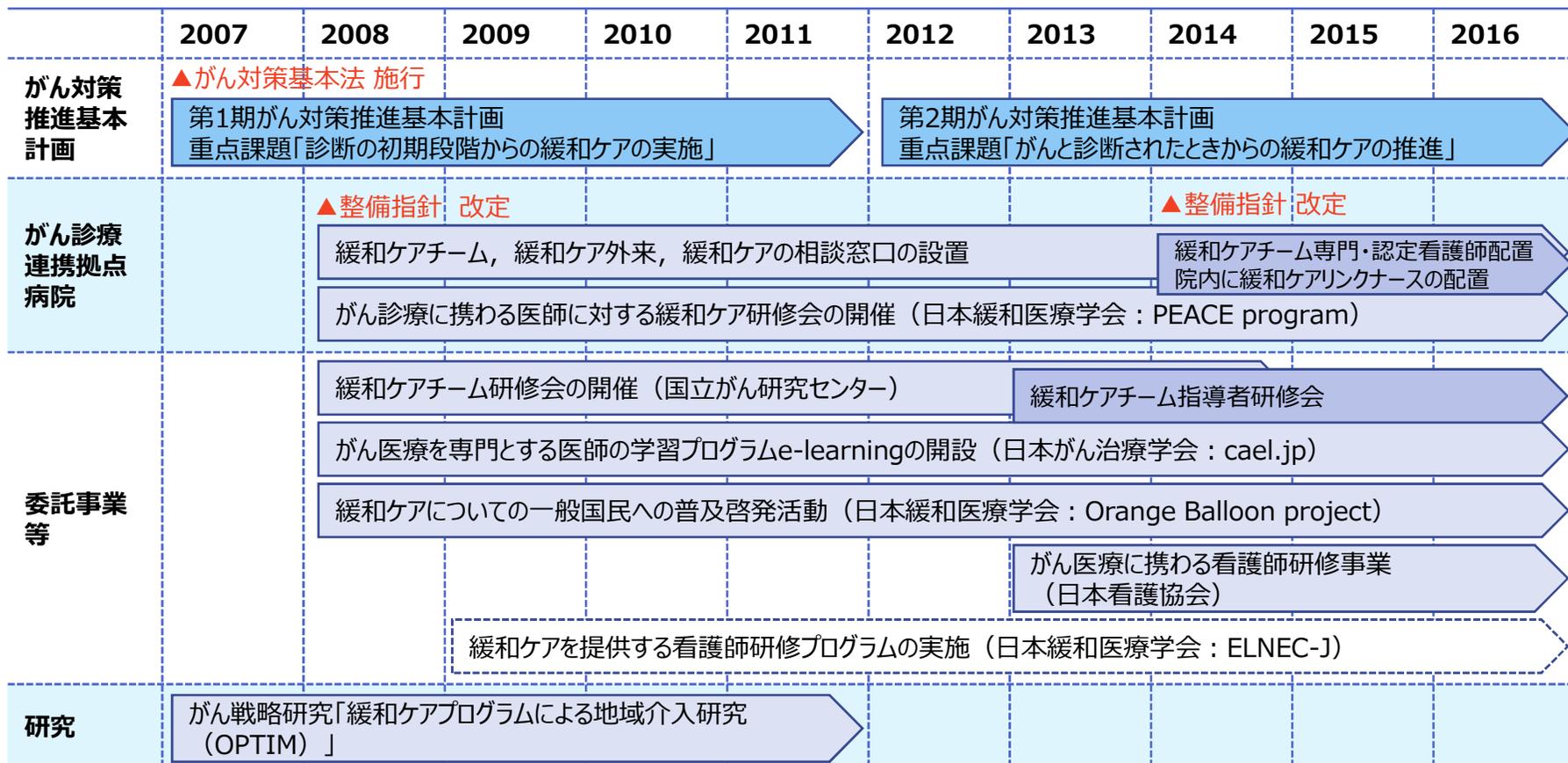
がん医療における緩和ケアに関する 医療従事者(医師・看護師)調査・施設調査

厚労科研「全国の医療機関における緩和ケアの実施状況と
医療従事者調査に基づく緩和ケアの推進に関する研究」班

国立がん研究センターがん対策情報センター 加藤雅志
2018.08

がん対策緩和ケアの主な取り組み

- わが国では、2007年にがん対策基本法の施行後、がん対策推進基本計画に基づき、「緩和ケアを推進」するため、全国で様々な施策が実施されてきた。



▲2008
医療従事者調査

▲2015
医療従事者調査

前回の医療従事者調査概要

調査目的

第2期がん対策推進基本計画の中間評価の一部として全国の医師・看護師から見た緩和ケアの変化を把握するため、アンケート調査を実施。

調査実施時期

①2008年1月～2月, ②2015年1月～2月

調査対象

全国の病院医師・診療所医師, 病院看護師・訪問看護ステーション看護師

①2008 先行調査

対象医師数 267,523 名
(病院 173,299 診療所 94,224)

対象看護師数 3,438 名 (OPTIM 研究)
(病院 3,126 訪問看護 312)



②2015

対象医師数 14,125 名
(病院 11,130 診療所医師 2,995)

対象看護師数 8,865 名
(病院 7,922 訪問看護 943)

調査内容

緩和ケアに関する知識・困難感など (2008年と2015年の比較)
緩和ケアの提供体制の整備状況に関する認識 (2015年の実態把握)
過去3年間の緩和ケアの変化に関する認識 (2015年の実態把握)

前回の医療従事者調査 結果概要

● 医師・看護師の知識・困難感の2008年から2015年の変化

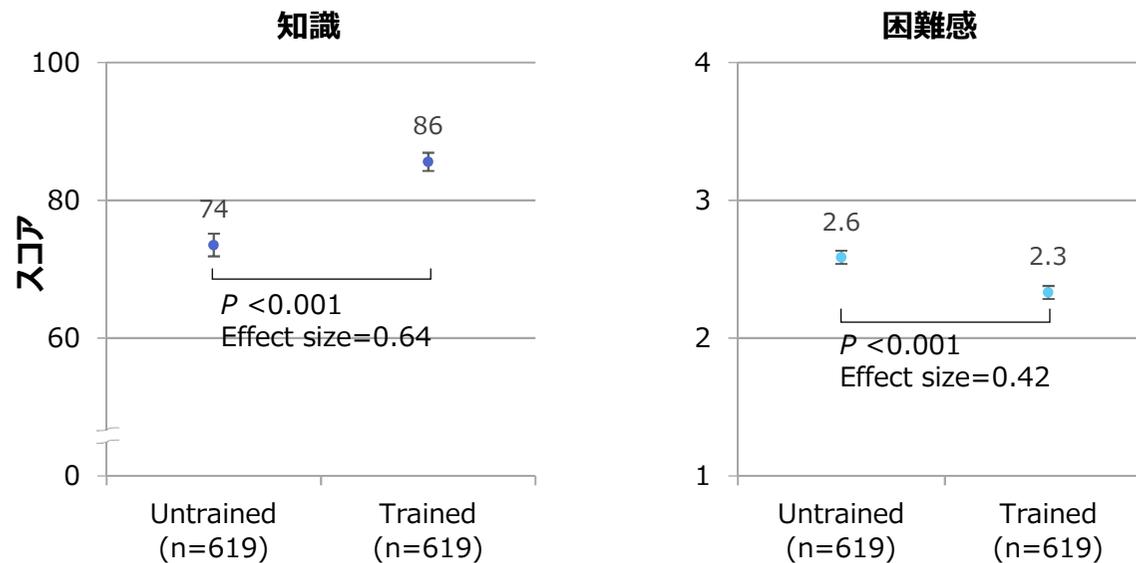
医師	がん診療連携拠点病院, 平均値 (標準偏差)				一般病院, 平均値 (標準偏差)				診療所, 平均値 (標準偏差)			
	2008 (n = 4826)	2015 (n=810)	効果量	P値	2008 (n = 23571)	2015 (n = 1360)	効果量	P値	2008 (n = 20090)	2015 (n = 550)	効果量	P値
知識 (範囲 0-100)	80(19.5)	83(18.6)	0.15	.002	74(22.0)	78(21.5)	0.18	<.001	59(24.5)	69(23.7)	0.41	<.001
困難感 (範囲1-4)	2.4(0.6)	2.3(0.5)	0.23	<.001	2.6(0.5)	2.5(0.5)	0.22	<.001	2.7(0.5)	2.7(0.6)	0.10	.132

看護師	がん診療連携拠点病院, 平均値 (標準偏差)				一般病院, 平均値 (標準偏差)				訪問看護ステーション, 平均値 (標準偏差)			
	2008 (n=1507)	2015 (n=1198)	効果量	P値	2008 (n=1002)	2015 (n=1869)	効果量	P値	2008 (n=198)	2015 (n=582)	効果量	P値
知識 (範囲 0-100)	53(20.0)	65(19.3)	0.60	<.001	47(19.1)	55(20.9)	0.40	<.001	52(20.9)	55(21.0)	0.13	.149
困難感 (範囲 1-5)	3.0(0.8)	2.5(0.7)	0.76	<.001	3.4(0.7)	2.8(0.7)	0.91	<.001	3.2(0.7)	2.9(0.8)	0.53	<.001
実践 (範囲 1-5)	3.7(0.6)	4.0(0.7)	0.13	<.001	3.5(0.6)	3.8(0.7)	0.42	<.001	3.8(0.6)	4.0(0.7)	0.21	.006

全国的な変化が認められた。一方、施設種別で比較すると、一般病院の医師・看護師は緩和ケアの知識が不十分で困難をより感じていた。
また、一般病院の医師・看護師は、緩和ケアを充実させるための機能が十分でないと認識されていた。

前回の医療従事者調査 結果概要

- 緩和ケア研修会の未修了医師と修了医師について、緩和ケアに関する知識・困難感の違いを比較。



緩和ケア研修会の受講状況

2008年から2015年の経年的な変化に合わせて、2015年の医師について、傾向スコアを用いて医師の背景の違いを補正して比較した場合でも、PEACE研修を受講した医師の緩和ケアの知識がより高く、症状緩和や専門家の支援、患者・家族とのコミュニケーションについて、困難感が少ないことが示された。

前回の医療従事者調査 結果まとめ

1. 2008年と比較して全国レベルで医師・看護師の緩和ケアに関する知識は増加し、困難感が減少していた。
2. また、過去3年間で緩和ケアに関する変化を認識している医師・看護師も多かった。
3. それらの要因として、拠点病院の緩和ケア提供体制の整備や、緩和ケアチーム等の専門家の配置、緩和ケアの研修機会の増加が影響していることが考えられた。
4. 一方、拠点病院以外の施設では、専門家の支援等、緩和ケアの提供体制が十分ではないではないことが考えられた。

第3期がん対策推進基本計画

3. 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

(1)がんと診断されたときからの緩和ケアの推進

①緩和ケアの提供について

(現況・課題)

今後、拠点病院以外においても緩和ケアを推進していくためには、拠点病院以外の病院や緩和ケア病棟における緩和ケアの実態を把握する必要があるとの指摘がある。

(取り組むべき施策)

国は実地調査等を通じて、拠点病院以外の病院における緩和ケアの実態や患者のニーズを把握する。

今回の医療従事者調査・施設調査の目的

【課題】

- 全国的な変化は把握できたが、都道府県別の変化は不明である。
- 一般病院（非拠点病院）では、緩和ケアが十分に提供できていないことが考えられるが、実際の状況は不明瞭である。

【研究目的】

1. 医療者調査によって、都道府県別、施設背景別の緩和ケアの実施状況を明確にする。
2. 施設調査によって、拠点病院と非拠点病院の緩和ケア提供体制を比較し、施設の状況に応じた緩和ケアの課題を明確にする。
3. 「一般病院の緩和ケアの推進」のための具体的な施策や取り組みの方向性への示唆を得る。

医療従事者調査

2008, 2015年の調査方法と同様の方法で実施

調査方法	匿名自記式質問紙調査
調査時期	がん診療連携拠点病院 2017年度（2018年3月～） 一般病院 2018年度（2018年9月頃～）
調査対象	①病院または診療所に属する医師 42,000名程度 （拠点病院35,000 一般病院 計画中） ②がん診療に従事する看護師 29,000名程度 （拠点病院24,000 一般病院 計画中）
対象抽出	全国病院リストを用いて都道府県別に拠点病院・一般病院の各グループから無作為に対象施設を抽出する
調査項目	緩和ケアに関する知識・困難感・診療状況 就労支援・妊孕性に関する情報提供の状況 終末期に関する患者との話し合いに対する認識（医師のみ） など
解析方法	2008, 2015の先行研究結果との全国的な変化の検証 都道府県別，施設種別の解析

医療者調査 追加項目例

- 医師の調査は、今回から「症状緩和に関する標準診療の順守状況」を把握する質問項目を追加。

ご自身のがん患者の具体的な診療内容についてお伺いします。
以下の項目について、ご自身の現在の状況をお答えください。

(項目例)

	そ全く そう 思わ ない	そ う 思 わ ない	そあ ま り 思 わ ない	そや や 思 う	そ う 思 う	そと も 思 う	わ か ら な い
○ がん疼痛患者に対して、経口オピオイドを投与するときは、原則として便秘に備えて下剤を処方している	1	2	3	4	5	6	0
○ オピオイドを定期投与しても時々痛みがある場合（突出痛）には、定期量の6分の1を原則としたオピオイドを疼痛時で使用できるようにしている	1	2	3	4	5	6	0
○ オピオイドを内服しているがん患者には、具体的な鎮痛薬の使用方法（定期的な服用や、突出痛がある場合のレスキュー薬の服用など）について説明を行っている	1	2	3	4	5	6	0
○ 神経障害の疼痛（神経叢浸潤・脊髄浸潤など、びりびり電気が走るような・しびれる・じんじんする痛み）に対しては、プレガバリン、アミトリプチロンなどの鎮痛補助薬を投与している	1	2	3	4	5	6	0
○ 薬物療法でがん疼痛が緩和しない場合には、神経ブロックの適応があるかを緩和ケア医や麻酔医に相談している	1	2	3	4	5	6	0
○ NRS（Numerical Rating Scale）などの疼痛の評価ツールを用いている	1	2	3	4	5	6	0

施設調査

調査方法 自記式質問紙調査法

調査期間 《医療者調査と同時》
がん診療連携拠点病院 2017年度（2018年3月～）
一般病院 2018年度（2018年9月頃～）

調査対象 がん拠点病院等 434施設
一般病院 約7,400施設

調査項目 《拠点病院の現況報告の内容に準ずる》

- ①施設長
 - ・ 緩和ケアチームの整備状況
 - ・ 院内全体の緩和ケアに取り組む体制 など
- ②緩和ケア担当者
 - ・ 緩和ケアチームの活動状況
 - ・ 院内全体の緩和ケアの提供体制 など

解析方法 拠点病院と一般病院の比較
都道府県別，施設種別による層別解析

今回の医療従事者調査・施設調査のポイント

医療従事者調査

- 全国の医師・看護師の緩和ケアに関する知識・困難感の把握
 - ・ 全国的な経年変化の把握
 - ・ **都道府県別**の実態把握
- 全国の医師の**症状緩和**に関する**標準診療の順守状況**の把握
- 全国の医師の**終末期**に関する患者との話し合いに対する**認識**の把握
- 全国の医師・看護師の**就労支援・妊孕性**に関する**情報提供状況**の把握

施設調査

- 一般病院も含む全国の病院の緩和ケア提供体制の整備に関する全国的な実態把握と、**都道府県別**の実態把握